

四つのテストについて(No.05)

今日は、『四つのテストの解釈と日本語訳』について、お話し
たいと思います。

世界大恐慌の時期に、ロータリアンがなしとげた大きな業績の
一つに、『四つのテスト Four-way test』の制定があったと言わ
れています。

この『四つのテスト』が『事業を繁栄に導くための四通りの
基準』ならば、当然 **Four-way tests** と複数形になるはず
です。これが単数形であるのは、事業を繁栄に導くためには、四通りの
基準を一つずつクリアーすれば良いのではなく、『**四つ纏めたも
のを一つの基準**』として、敢えて、『**その全てをクリアーしなけれ
ばならない！！**』としているそうです。

次に、順に4つのテストを見えます。

1. **Is it the truth** ? 真実かどうか

これは、最も大切な基準と言われていますが、単に『嘘偽りが無いかどうか』をチェックしなさいと言っているのでしょうか？。ここで問題となるのは、定冠詞 **the** です。通常、**the** というと、『話している人と、その話を聞いている人が、共通の特定のもの』を指しています。敢えて直訳すと『それは、あの真実ですか？』となり、特定なものを指すことになります。従って、この日本語訳には従来から議論がります。『**事実**』は客観的なものであり、**真実**は主観的なものである』又は、『**事実は一つ、真実は無数**』の格言があります。従って、唯一無二の『**事実かどうか**』と訳すのが良いのではないかと指摘です。しかし、敢えて『**真実**』と訳したのには何か深い意味があるのでしょうか？。

例えば、『自分自身が本当に熟慮した結論としての『**真実**』と言えるのか、どうか』を自問自答させているのではないか？。多様性まで容認しているのか考えさせられます。

2. Is it fair to all concerned ? みんなに公平か

fair と all concerned という言葉の翻訳に問題が指摘されています。fair は公平ではなく**公正**と訳すべきとの指摘です。公平とは平等を意味するが、それで良いのかという指摘です。

又、all concerned は all だけが訳されており、肝心の concerned が省略されています。四つのテストは『商取引』の基準から始まった文章ですから、この concerned は、関わりのある人、つまり利害関係者のことを意味することは明白です。従ってこのフレーズは『**全ての利害関係者に対して公正か**』ということの意味していることになります。

3. **Will it build goodwill and better friendship ?** 好意と友情を深めるか

goodwill は単なる好意とか善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すと共に、店ののれんや取引先を表します。すなわち、その商取引が店の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げて、取引先を増やすかどうかを問うものです。従って、『**それは信頼を高め、友情を深めるか**』と訳すべきと指摘されています。

3. Will it be beneficial to all concerned ? みんなのためになるかどうか

通常、『Benefit』は『儲け』そのものを表す言葉です。商取引において適正な利潤を追求することは当然なことであり、決して恥ずべきことではありません。ただし、売り手だけが儲かった、また買い手だけが儲かったのでは公正な取引とは言えません。

その商取引によって、全ての取引先が適正な利潤を得るかどうかが問題なのです。ここでは、金銭的なものだけを考えず、他の5大奉仕に関する労働奉仕、更には精神的な生き甲斐、満足、感動、感謝なども含めて 私は、『全ての利害関係者に恩恵をもたらすか』と訳すべきと思っています。

今一度、『4つのテスト』について考えて頂くために、『ロータリー情報ハンドブック』をベースとし、敢えて各種議論と私的な解釈を含めてお話ししました。

これで会長の時間を終わります。